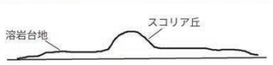
宇　部　日　報　　2024年〈令和6年〉　8月21日 水曜日

暑い季節に火山の話

「ほっとやまはく」タイム㉑

先日、東京に行くために飛行機に乗ったときのことです。朝一番の便だったので羽田に到着するまでゆっくり寝ようと思い、しばらくの間、目を閉じていました。あるときふと目を開けると、1級河川のダイナミックな蛇行が飛び込んできました。出発するときの山口県は土砂降りの雨でしたが、ここは晴れているようで、地形をはっきり見ることができました。地形を見始めたら面白くなってしまい、寝るのも忘れて眺めていると、ひときわ大きな山が見えてきました。この時まで何県の上空を飛んでいるのか分かっていませんでしたが、これは紛れもなく富士山です。平たい地形の中に、すっと飛び出た美しく大きな円すい形。やはり富士山は大きいなあと思っていたら、今度は小さな緑色の突起物が海岸線の近くに見えてきました。頭の中の地図帳で場所の確認です。ええっと、富士山があったからここは静岡県で、海があるということはこの辺りは伊豆半島で、だとしたらこの緑色の山は大室山！上空からだと火口がぽっかり開いているのがよく見えます。先ほどの富士山と比べるとても小さくてかわいらしいです。これが「複成火山」と「単成火山」の違いなのかとしみじみと感じたのでした。教科書的なことを実感できると、とてもうれしいものですね。

笠山のスコリア



海上から見た笠山

飛行機から見た富士山

飛行機から見た大室山

複成火山と単成火山

今年の夏はいつもにも増して暑い日が続いています。そんな暑いときに火山の話。火という字を見るだけでも汗が噴き出しそうです。さて、上空から見えた山は富士山と大室山で、どちらも火山です。富士山は何度も噴火活動があった複成火山で、大室山は1回の噴火活動でできた単成火山です。おおむね過去1万年以内に噴火した火山、および現在活発な噴気活動のある火山を活火山とすると気象庁は定めており、日本にある活火山の数は111になります。富士山は江戸時代の宝永の噴火（1707年）が記録に残る最後の噴火ですので活火山であり、噴気などの小規模な火山活動は明治期にも記録されています。大室山は伊豆東部火山群に属していて、およそ4000年前に噴火しました。伊豆東部火山群が活火山とされています。

山口県にある活火山

火山の噴火はどこか遠い所の話で、山口県とは関係ないと思われるかもしれませんが、実は県内にも活火山があります。それは、萩市にある笠山です。笠山は阿武単成火山群の一つで、これに属する50以上ある火山の中で最も若く、約8800年前に噴火しました。標高112㍍のとてもコンパクトな山で、日本一小さな活火山のようです。笠山は形が特徴的で、平安時代に女性が被っていた市女がさに形が似ているところからその名前が付けられたとも言われています。

笠山は、平べったい部分とポコッとした部分の2階建て構造をしています。最初に溶岩が流れて平べったい台地を作り、その上に岩石が降り積もって高まりを作っています。マグマが空中に勢いよく放出されたときにマグマ中に溶け込んでいたガス成分が一気に気体になり、それが抜け出ながら空気中で冷やされ固まって（岩石になって）落下します。この岩石はとても穴が多くてスコリアと呼ばれています。軽石って聞いたことありませんか。穴がいっぱい開いたとっても軽い石で、色が白っぽいです。色が黒っぽい軽石がスコリアで、色の違いはマグマの成分の違いを反映しています。このスコリアが溶岩台地の上にどんどん降り積もってこんもりした高まりを作ります。これが笠山のスコリア丘の部分です。話は戻りますが、伊豆半島の大室山はスコリア丘として有名なんですよ。

さきほどスコリアの色は黒っぽいと書きましたが、笠山のスコリアは黒というより赤っぽい色をしています。さて、ここで問題です。色が赤い理由は何でしょうか。岩石の色って結構いろんなことを物語ってくれます。続きは10月2日の地学のお話で。

赤﨑英里（学芸課主任・地学担当）

▽次回は9月4日です。

山口県立山口博物館
ＴＥＬ083－922－0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。最新情報はホームページで。